テトテトテトテトテ

校長だより　令和４年１２月　ＮＯ．７

松ろう今年の漢字は「繋」

一年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」が 12 日、京都・清水寺で発表され、今年は『戦』に決まりました。ロシアのウクライナ侵攻により、「戦」争の恐ろしさを目の当たりにした一年、円安・物価高による生活上での「戦」い、スポーツでの熱「戦」・挑「戦」も注目された一年でもありました。

松ろうの「今年の漢字」は、「繋（がる）」を選びました。地域との連携を強化し、学びや育ちを学校に留めず、地域のひと・もの・ことを題材にした教育活動に取り組んできました。特に、古江公民館を拠点として、地域と繋がる交流活動、ボランティア活動を実施することができました。その様子は、本校のＨＰ「松ろうブログ」で紹介していますので、ぜひご覧ください。地域の方々に、「すごいね」「じょうずだね」と褒めてもらったり、「ありがとう」「助かりました」「また、お願いします」と感謝の言葉をもらったりしたことは、子どもたちの自己肯定感を高め、自信となったことでしょう。この内面の育ちが、社会の人の役に立ちたいといった志や奉仕の心をもつことに繋がるのではないでしょうか。

そして、2 学期は、リモートで繋がり、浜田ろう学校や他県のろう学校との合同学習を実施しました。また、県内東部の聴覚障がい特別支援学級（難聴学級）の児童生徒が本校に集い、小学部・中学部で合同学習も実施しました。聴覚障がいのある児童生徒同士が「手と心でつながる　わかりあえる喜び」を実感できる場、「協働的な学び」を実現する場となり、この「繋がり」はとても重要だと感じました。

先月、筑波技術大学で学んでいる本校の卒業生と話す機会がありました。筑波技術大学は、聴覚障がい者のための高等教育機関として、幅広い教養と専門的な職業能力を合わせもつ専門職業人を養成する大学です。「筑波技術大学に入って良かったと思うことは何？」と尋ねると、「私は、ずっと一人学級だった。大学に入学してから、同じ聴こえない仲間と一緒に学ぶことができ、多様な見方、捉え方、考え方があるのだと知った。仲間と話し合って、意見を出し合い、まとめていくことは難しいけれど、とても楽しい。」と目を輝かせながら話してくれました。聴覚障がいのある仲間づくりも、ろう学校の大事な使命だと教えられました。仲間のことを知り、仲間と繋がりながら、思いを伝えあう「対話的な学び」をどう設定していくか、大きな宿題をもらいました。